特集にあたって

救急疾患における輸液療法は，全身状態を立て直す最初の一歩であり，不適切な輸液はしばしば患者の状態を悪化させます。したがって，急性期疾患の病態を十分に理解し，患者の状態に応じた適切な輸液を進めることが求められます。しかしながら，初療では病態が明らかでない急性期疾患も多く，鑑別診断を進めながら手探りで輸液を進めるケースもよく経験します。

そのようななか，基本的な“輸液のコツ”と“その根拠（理論的背景）”を知っておくことは，救急医や集中治療医，当直医をはじめとした急性期疾患に対応するすべての医師にとってきわめて重要です。

本特集では，救急現場における実際の症例をとおして適切な輸液管理に至るプロセスをつかんでいただくことを目的としています。臨床の第一線で活躍されている先生方に輸液管理の実践的な思考過程をご紹介いただき，適切な“輸液のコツ”と“その根拠”を示していただきました。日常診療の現場においても直接参照できる特集になっています。明日からの救急診療に最大限生かしていただけることを，願っています。

『救急医学』編集委員会